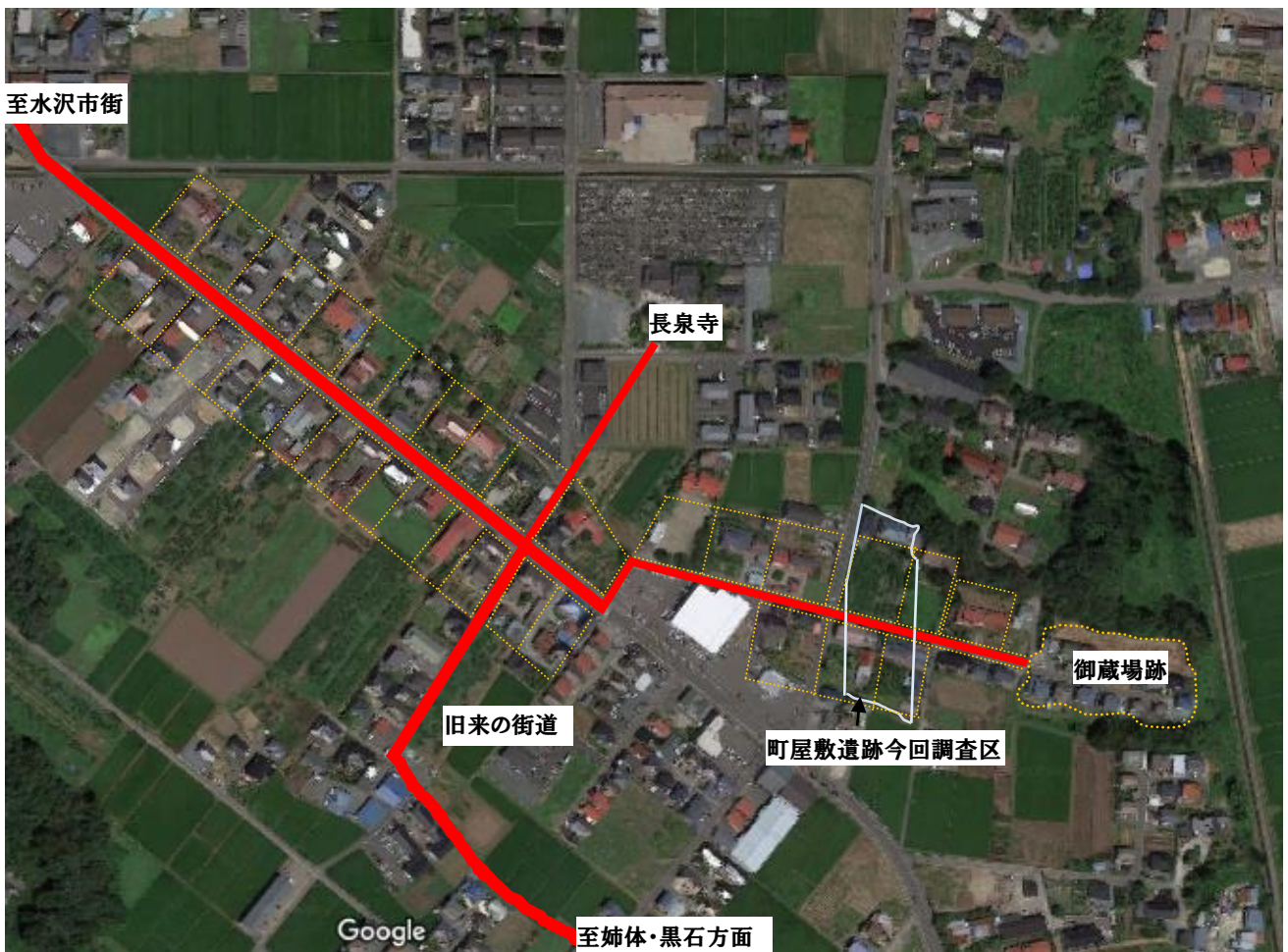


町屋敷遺跡

調査要綱

遺 跡 名：町屋敷遺跡（まちやしきいせき）
所 在 地：奥州市真城字町屋敷
事 業 名：一般国道 4 号東バイパス建設に伴う緊急発掘調査
調 査 機 関：（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
委 託 者：国土交通省東北地方整備局 岩手河川国道事務所
発掘調査期間：平成 29 年 7 月 3 日～11 月 30 日
調査対象面積：6,000 m²
調査担当者：羽柴直人 對馬利彦 出町拓也
検 出 遺 構：柱穴 1230 個（これらにより構成される掘立柱建物約 50 棟 柱列 5 条）
土坑約 110 基 溝 6 条 古代の竪穴住居 2 棟 縄文時代の陥し穴 3 基
出 土 遺 物：近世陶磁器 石製品 銭 土師器 縄文土器 12 世紀？の常滑産壺



町屋敷遺跡の周辺

屋敷の地割は地籍図、住宅地図等を参考とし表示したが、正確さを欠く

はじめに

町屋敷遺跡は、水沢競馬場の南西 700mに位置する、近世（江戸時代）の屋敷跡^{やしきあと}です。一般国道 4 号水沢東バイパスの建設工事により、遺跡の一部が改変されるため発掘調査^{はくつちようさ}がおこなわれました。

町屋敷遺跡周辺の概要

近世には、遺跡の所在する町屋敷地区は、仙台藩^{せだいの}の瀬台野村に属していました。安永 5 年（1776）に書かれた「瀬台野村風土記御用書出^{せだいのむらふどきごようかきだし}」には瀬台野村の家数 51 軒、その内 44 軒が「町屋敷」に所在する旨が記されています。現在、国道 343 号沿いに面して規則的に区割された屋敷群を見ることができ、これが「町屋敷」の痕跡と考えられます。つまり「町屋敷」は道路に沿って規格的に屋敷を設置された「街村^{がいそん}」と理解されます。この規則的な屋敷の区割りは、国道 343 号から榊形^{ますがた}に続く調査区付近の道路沿いにも連続しており、発掘された屋敷も「町屋敷」を構成するものと判断できます。

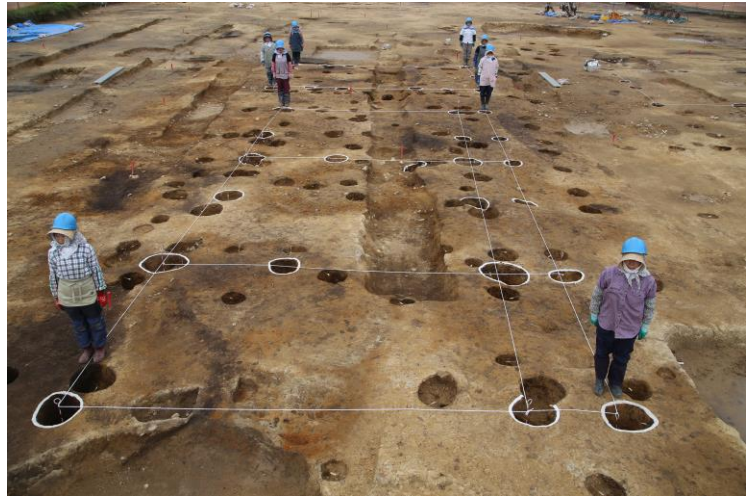
瀬台野村には年貢米^{ねんぐまい}を集積、検査、出荷する仙台藩^{せだいの}の施設「瀬台野御蔵場^{おくらば}」が存在していました（今回の調査範囲の東側約 100m）。規則的な配置の屋敷群「町屋敷」は年貢米を管理する「御蔵場」の警備に係る人々を集住させる施設であった可能性も考えられます。「瀬台野御蔵場」は北上川の河道変化により、出荷のための川湊としての機能が失われ、享保 3 年(1718 年)に廃止されますが、「町屋敷」の区割は現在まで踏襲^{とうしゅう}されていたのです。

遺跡の概要

調査区は東西に横断する市道（市道町屋敷線 3 号）により南区、北区に分割されています。

この市道は近世以来の道で、「瀬台野御蔵場」にアクセスする道でした。市道に沿う形で、道路^{どうろ}側溝^{そっこう}と推測される溝も見つかっています。南区、北区ではそれぞれ、屋敷を区画する溝、掘立柱建物が見つかっており、その配置から、北区には屋敷が 2 箇所（西側 屋敷①・東側 屋敷②）、南区にも屋敷が 2 箇所（西側 屋敷③、東側 屋敷④）、合計 4 箇所の屋敷が存在する

と推測されます。これらは上述の通り、道路沿いに規格的に配置された「町屋敷」の一部分と判断できます。それぞれの屋敷の^{しゅおく}主屋と判断される^{ほったてはしらたてもの}掘立柱建物はいずれも5×10m程度の規模です。その他、^{ふぞくや}附属屋（^{うまや}厩、小屋など）と推測される掘立柱建物も



屋敷①の主屋(前方)と付属屋(後方)

見つかっています。掘立柱建物は幾度も建替えがおこなわれ、建物が著しく重複する状況となっています。これは掘立柱建物の耐久年数が30～40年程度という短さに起因しています。屋敷④では、主屋と推測される掘立柱建物よりも古い、大規模な^{くかくみぞ}区画溝（SD1）が見つかっています。この区画溝は瀬台野御蔵場の敷地の一部を区画するものと推測され、屋敷④は御蔵場廃絶後（1718年以後）に成立したと考えられます。

出土遺物は近世の陶磁器が多数出土しています。^{ひぜんさん}肥前産（佐賀県～長崎県）、^{おおぼりそうまん}大堀相馬産（福島県浪江町）、^{せとさん}瀬戸産（愛知県瀬戸市）などの陶磁器が目立ちます。その他、^{ひきうす}石製挽臼、^{すずり}硯、



出土した近世の陶磁器

^{ぜに}銭などが出土しています。

また、今回の調査では近世の他に、8世紀代の竪穴住居2棟、土師器、縄文時代の^{おと}陥し穴、^{あな}微量の縄文土器などがみつかっています。そして12世紀の^{とこなめさんとうきつぼ}常滑産陶器壺と推測される小破片も出土しています。



町屋敷遺跡遺構配置図